

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第 号	氏 名	坂倉杏介
<p>主論文題目： 地域の協働プラットフォームの設計と参加主体の相互作用に関する研究 地域の居場所における「つながり」と「活動」の創出過程</p>			
<p>地域を支えるコミュニティ形成のためには、市民の自発的・主体的な地域参加が不可欠だが、どのようにすればその動機付けが高まるかは明らかではない。地域の居場所では、多様な人が自由に出入りし交流するなかから様々なつながりと活発な活動が生まれ、地域参加のきっかけとして有効な手段の一つと考えられる。これまで十分に研究されてこなかった居場所の効果的な設計手法と参加者が自発的に行動をはじめ過程が解明されることで、効果的な地域づくりが可能となる。</p> <p>本研究では、地域の居場所を協働プラットフォームとして捉え、そこで参加者同士の相互作用の中で参加者がどのような経験をしているか、プラットフォームアーキテクトであるキーパーソンがどのような設計の工夫をしているか、という二つの視点から質的な調査を行い、参加者の相互作用を通じて居場所が形成され、つながりと活動が創出される過程を明らかにする。</p> <p>このため全国4カ所「芝の家」（東京都港区）、津屋崎ランチ（福岡県福津市）、うちの実家（新潟市）、リタクラブ（富山市）を事例に、合計40名の参加者とキーパーソンに対する聞き取り調査、参与観察によって得られたデータに基づき検証を行った。</p> <p>調査の結果、参加者の変化については、信じられる人間関係の拡大、交流によって生じる自己の探求、活動に向けた試行錯誤の3要素が重要であり、探求や試行をゆるし相互に助け合う規範を持つコミュニティが参加と活動継続の動機付けになることが明らかになった。また、協働プラットフォームの設計要件は地域の居場所にも適応できることが確かめられたが、ビジネスプラットフォームに対してコミュニティプラットフォームではキーパーソンの哲学が不可欠であり、それをデザインとして具体化することが重要であること、そして参加者コミュニティを見守り成長に伴走する内部変化や関係性のマネジメントが重要であることがわかった。</p> <p>二つの研究課題の結果から、地域の居場所において参加者とプラットフォームはどちらも動的であり、参加者の相互作用によってプラットフォームが創発されるという視点が得られた。こうした過程は個人にとってより自分らしい状態に変化していくための移行であり、その変化と相互作用の結果としてより望ましい地域が生成するという新しい地域活性の見方が得られるようになる。</p> <p>キーワード： 地域の居場所、協働プラットフォーム、社会的相互作用、コミュニティ形成、住民参加のまちづくり</p>			